



現代アメリカ英語における ‘ iced/ice tea [coffee, water] ’

著者	田口 純, 末松 信子, 田島 松二
雑誌名	人間文化研究所年報
号	28
ページ	31-40
発行年	2017-08-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1219/00000922/

現代アメリカ英語における ‘iced/ice tea [coffee, water]’ について

田 口 純・末 松 信 子・田 島 松 二

The Expressions ‘iced/ice tea [coffee, water]’ in Contemporary American English

Atsushi TAGUCHI, Nobuko SUEMATSU and Matsuji TAJIMA

I

近年、わが国でも、とりわけ夏には「アイスティー」「アイスコーヒー」ということばを日常的に耳にするようになった。アメリカでは、「アイスコーヒー」は比較的最近嗜まれるようになった飲み物であるが、「アイスティー」は、特に南部では随分昔から一般的な飲み物である。ではその「アイスティー」の英語表現は何かというと、「iced tea」である。しかし、これは発音上は「アイスティー」であり、「ice tea」と同一である。そのためであろうか、綴り字上も ice tea という表現形式も目につくようになってきている。その影響か、他の飲み物 coffee, water にも本来の iced の代わりに ice を使った形式が散見されるようになってきている。どちらも意味的には「冷たい、氷の入った」飲み物を表しているのであるが、どちらの方がより一般的なのだろうか。アメリカ英語とイギリス英語で違いはあるのだろうか。歴史的にはいつ頃から使われはじめ、どのような変遷があったのだろうか。小論では、tea, coffee, water に限って、大規模な現代英米語コーパスを利用して、その辺りを明らかにしたいと思う。(なお、当初は milk も調査するつもりであったが、冷蔵庫の発達した20世紀ではわざわざ iced milk とは言わないようであり、一方、ice milk は「冷たいミルク」ではなく、乳脂肪分の少ないアイスクリームに似た食品¹⁾を指すようであるので、ここでは扱わないことにする。)

本調査のために利用した現代アメリカ英語のコーパスは、Brigham Young 大学の Mark Davies 教授が構築した1990年から2015年までの約5億2千万語からなる The Corpus of Contemporary American English (以下、COCA と略記)²⁾である。(このコーパスは現在も構築中であるが、我々の調査は2017年5月の時点によるものである。) 歴史的考察に使用したコーパスは、同じく Mark

Davies 教授が構築した1810年から2009年までの約4億語からなるThe Corpus of Historical American English (以下、COHA)³⁾である。イギリス英語に関しては、アメリカ英語のCOCAとCOHAに対応するコーパスは存在しないので、現代イギリス英語については、1980年代から1993年までの約1億語からなるBritish National Corpus(以下、BNC)⁴⁾を利用する。ただし、これは上記Mark Davies教授が提供するインターフェイス(BYU-BNC)に基づいている。

II

本論に入る前に、tea, coffee, water それぞれに前置される「冷たい、氷の入った」を意味するiced/iceに関する内外の辞書、語法書等の見解を見ておこう。

現在の英米辞書を調べてみると、米国系ではAHD(2011⁵⁾)がiced teaを見出し語として挙げているくらいである。ice teaを挙げているものはない。英国系ではCOD(2011¹²⁾)がやはりiced teaを見出し語に挙げているが、「北米ではice teaとも」と記している。LDCE(2014⁶⁾)ではicedを見出し語に挙げ、iced water, iced tea, iced coffeeを例示している。この辞書にはまたice waterという見出し語も挙がっている。OALD(2015⁹⁾)も見出し語icedのところ、iced coffee/teaを例示している。同書にはiced waterも見出し語にあり、これはイギリス語法であり、北米語法ではice waterとある。わが国のものでは、『研究社新英和大辞典』の第6版(2002)はicedを見出し語として挙げ、～water(《米》ice water), ～coffee(《米》ice coffee), ～tea(《米》ice tea)という例を挙げている。『ジーニアス英和辞典』第5版(2014)では見出し語のiceの項にcoffee, tea, waterの例を挙げている。一方、icedも見出し語にあり、iced coffeeやiced teaの例とともに「まれにice coffee, ice teaともいう」との注記がある。さらに、見出し語のice water(icewater)では、イギリス英語としてiced waterとも言うところがある。『リーダーズ英和辞典』第3版(2012)ではicedという見出し語のもとにcoffee, teaが例示されている。また、同書にはice waterも見出し語にある。

語法書ではどうだろうか。取り上げている語法書は多くないが、たとえばWilson(1993)によると、ice teaはアクセントはteaにあり、icedの語尾音[t]が消失してしまったため、綴り字上も発音上もice teaとなった。一方iced coffeeは発音上も綴り字上も語尾音の[t]を残しているが、それはiced coffeeの方がice teaよりも作り出されたのが新しいからであるという。また、わが国の福井・北山(2008)には「[アイスティー]は、iced tea, ice teaのどちらでもよい。」とある。

歴史的原理に基づいて編纂された辞書で初出年代を見てみよう。まずOED2(1989)であるが、icedの項を調べると、iced waterについては1673年、iced teaは1877年、iced coffeeは1879年の初出例がそれぞれ挙がっている。iceが前置された例としては、Ice-Watersが1722年の初出である。teaとcoffeeの例は見られない。次にCraigie & Hulbertの米語辞典(1938-44)を見ると、iced teaの初出例は1886年、iced waterは1855年とあるが、iced coffeeの例は見られない。

一方、ice 形の方は ice water の初出例が1832年に見られるだけで、tea, coffee の例はないようである。また、Mathews (1951) によると、iced 形では iced tea の初出例が1880年、iced coffee が1944年とあるが、water の例はなく、ice 形の方はどの飲み物の用例も見られない。tea, coffee, water のいずれの場合も OED2 が記録する例が最も早いものである。

以上のことをまとめると、米国系の辞書には ‘iced/ice tea [coffee, water]’ を取り上げたものはほとんどなく、iced tea (or ice tea) が例示されているくらいであるが、英国系の辞書と一部のわが国の辞書では、イギリス英語では iced を用いるのが普通であり、‘ice tea [coffee, water]’ といった形式はアメリカ語法であるとする。歴史的にも iced を用いた形式が一般的で、ice を使う形式はほとんど記録されていない。では、大規模コーパスに見られる現代アメリカ英語やイギリス英語での実情はどうか。またアメリカ英語における歴史的な変遷は見られるのか、といった点を以下で見てゆきたいと思う。

III

今日のアメリカ英語では tea, coffee, water を修飾する「冷たい、氷の入った（飲み物）」を意味する場合、iced と ice ではどちらが一般的なのか、また、イギリス英語ではどうなのか。現代英米語の状況を観察する前に、歴史的コーパスが利用できるアメリカ英語に限って、それぞれの歴史的変遷を見てみよう。

3.1 歴史的に見たアメリカ英語の ‘iced/ice tea [coffee, water]’

Mark Davies 教授が構築した約4億語からなるアメリカ英語の歴史的コーパス COHA (1810–2009) を利用して、1810年以降のアメリカ英語における歴史的変遷を見てみよう。このコーパスは10年単位（大半はそれぞれ約2千万語）で検索データを提供してくれる。以下に、10年毎の tea, coffee, water のそれぞれに前置される iced と ice の用例数を示すが、まず、iced/ice tea の生起状況を見てみよう。

表 1.1 : COHA における ‘iced/ice tea’ (年代別)

	iced tea	ice tea
1810年代	-	-
1820年代	-	-
1830年代	-	-
1840年代	-	-
1850年代	-	-
1860年代	1	-
1870年代	-	-
1880年代	2	-
1890年代	-	-
1900年代	1	5

1910年代	7	-
1920年代	7	1
1930年代	8	-
1940年代	16	1
1950年代	13	-
1960年代	31	1
1970年代	17	5
1980年代	23	-
1990年代	85	17
2000年代	80	11
計	291	41

上表の年代別用例数を19世紀と20世紀に分けて示すと、次のようになる。

表 1.2 : COHA における ‘iced/ice tea’ (世紀別)

	iced tea	ice tea
19世紀	3	-
20世紀	288	41
計	291	41

表 1.1によれば、アメリカ英語では iced tea は1860年代から、ice tea は1900年代から見られる。iced tea はその後1910年代から徐々に増え、1990年代以降は急激に増加している。一方、ice teaの方は1900年代に初出するものの1980年代まではあまり見られず、1990年代以降やや増加するが、iced tea には遠く及ばない。アメリカ英語では19世紀の初出時よりほぼ一貫して iced tea という形式が好まれていることが分かる。ただし、1990年代以降は ice tea という形式も漸増する。iced tea, ice tea の初出例をそれぞれ示すが、iced tea の例 (1) は OED の初出例 (1877年) より少し早いものである。(以下、引用文中の下線は筆者らのものである。)

- (1) Ere it was ended Elsie came in, bearing a waiter on which stood a silver epergne filled with fruit, a basket of cake, and a goblet of iced tea. (1869 FIC: Vashti; or, “Until Death Us Do Part.” A Novel)
- (2) Come into the sittin’-room, Anna, and Julia will make us some ice tea. (1909 FIC: Three Lives Stories of The Good Anna, Melanctha and The Gentle Lena)

次に、コーヒーの場合はどうか。iced/ice coffee の生起状況は次に示す通りである。

表 2.1 : COHA における 'iced/ice coffee' (年代別)

	iced coffee	ice coffee
1810年代	-	-
1820年代	-	-
1830年代	-	-
1840年代	-	-
1850年代	-	-
1860年代	-	-
1870年代	-	-
1880年代	1	-
1890年代	-	-
1900年代	1	-
1910年代	3	-
1920年代	1	2
1930年代	1	-
1940年代	2	-
1950年代	4	-
1960年代	4	-
1970年代	-	1
1980年代	2	-
1990年代	6	-
2000年代	5	-
計	30	3

表 2.2 : COHA における 'iced/ice coffee' (世紀別)

	iced coffee	ice coffee
19世紀	1	0
20世紀	29	3
計	30	3

上表によれば、iced/ice coffee の生起数自体は多くない。(コーヒーはホットで飲むのがアメリカの食文化なのであろう。) iced coffee は1880年代から見られるが、20世紀に入っても普及しなかったのか、頻度は低いままである。一方の ice coffee はもっと稀で、1920年代に2例、1970年代に1例見られるだけである。少ない用例数ではあるが、iced coffee が一般的な用法ということになるだろうか。以下に、iced coffee と ice coffee の初出例を示す。

- (3) He had been lying in the shade, drinking iced coffee, and smoking. (1886 FIC: The Squire of Sandal-Side A Pastoral Romance)
- (4) Soon a waiter slipped a glass of ice coffee, rich in cream and sugar, under my counter. (1921 MAG: Working with the working woman)

最後に iced/ice water の生起状況を見てみよう。

表 3.1 : COHA における 'iced/ice water' (年代別)

	iced water	ice water
1810年代	-	-
1820年代	2	-
1830年代	1	-
1840年代	4	2
1850年代	6	3
1860年代	4	4
1870年代	7	3
1880年代	3	24
1890年代	7	7
1900年代	2	18
1910年代	3	19
1920年代	1	11
1930年代	3	23
1940年代	1	28
1950年代	2	37
1960年代	1	27
1970年代	1	30
1980年代	2	30
1990年代	1	41
2000年代	1	69
計	52	376

表 3.2 : COHA における 'iced/ice water' (世紀別)

	iced water	ice water
19世紀	34	43
20世紀	18	333
計	52	376

上表 3.1によれば、iced water は1820年代にはじめて登場し、1870年代と1890年代にやや増加するが、今日に至るまで頻度は低いままである。一方、ice water は1840年代から見られ、徐々に使用が増えていき、1880年代には iced water の使用例を抜いて、その後も一貫して増加している。「冷たい、氷の入った」水を指す場合、20世紀以降のアメリカ英語では ice water という形式が一般的である。用例数からいえば、最初に見た iced tea にも匹敵する数をこの ice water が見せている。ただし、iced/ice の用法については逆になっている。以下に iced water と ice water の初出例を示しておく。

(5) This moral appeared to her tedious and common-place, it broke the action, chilled the

- reader, and was a sort of glass of iced water. (1821 MAG: Life of Bernardin de St. Pierre)
- (6) Do the' aristocracy go the hull temperance principle, and give their visitors nothing but ice water. (1847 FIC: The Drunkard)

ここまでではアメリカ英語の歴史的コーパスに基づいて、‘iced/ice tea [coffee, water]’ のアメリカ英語における歴史的変遷を見てきたが、次節ではもっと規模の大きい現代アメリカ英語コーパス COCA (1990–2015) を使って、今日のアメリカ英語における状況を見てみよう。

3.2 現代アメリカ英語における ‘iced/ice tea [coffee, water]’

約5億2千万語からなる現代アメリカ英語のコーパス COCA には ‘iced/ice tea [coffee, water]’ がそれぞれどれくらい見られるのか、また、参考までに、約1億語からなるイギリス英語のコーパス BNC における生起状況も併せて表4に示す。

表4：COCA と BNC における ‘iced/ice tea [coffee, water]’

	iced tea	ice tea	iced coffee	ice coffee	iced water	ice water
COCA	980 (93.0%)	74 (7.0%)	91 (96.8%)	3 (3.2%)	19 (2.2%)	828 (97.8%)
BNC	15 (83.3%)	3 (16.7%)	4 (100%)	0 (0%)	36 (80%)	9 (20%)

上表に見られるように、現代アメリカ英語では iced tea は980例 (93.0%)、ice tea は74例 (7.0%)、と tea には iced が用いられるのが通例であることが分かる。coffee の場合も、用例数は多くはないが、iced coffee 91例 (96.8%)、ice coffee 3例 (3.2%)、と圧倒的に iced が用いられている。その反対に、water の場合は、iced water 19例 (2.2%)、ice water 828例 (97.8%)、と ice 形が通常の形式である。このように、アメリカ英語では tea と coffee の場合、iced の方が一般的で、water の場合は逆に ice の方が一般的である。これは前節 3.1で観察した COHA の1990–2009年の結果ともほぼ一致している。

では、イギリス英語の場合はどうか。イギリス英語の BNC はアメリカ英語の COCA の5分の1以下の規模のコーパスであり、当然のことながら用例数も少ない。中でも、アメリカ英語とは異なる傾向が見受けられる。まず、iced tea の15例 (83.3%) に対して ice tea は3例 (16.7%) であり、iced tea が普通である。iced coffee は4例 (100%) 見られるが ice coffee の例はない。最後に iced water は36例 (80%) あるのに対して、ice water は9例 (20%)、とここでも iced water の方が一般的である。イギリス英語の場合、tea, coffee, water のどの飲み物をとっても、iced 形しか使われないか、もしくは iced 形が一般的であることが分かる。以下に、COCA と BNC から得られた用例をそれぞれ1例ずつ示す。

<COCA の用例>

- (7) Before the debate I say a little prayer and drink a diet Snapple iced tea. (2015 SPOK: CNN)

- (8) You throw up your hands in defeat and order a jalapeno sausage sandwich to go and choose Cheetos as your chip option with an ice tea to drink. (2015 FIC: Texas Review)
- (9) We came here to get iced coffee. (2015 SPOK: ABC)
- (10) We came here to ice coffee. (2015 SPOK: ABC)
- (11) Blanching -- the process of heating vegetables with boiling water or steam for a set amount of time, then immediately plunging them into cold or iced water -- stops enzyme activity that causes vegetables to lose nutrients and change texture. (2013 MAG: Mother Earth News)
- (12) Before we start, you want me to put my hand in this bucket of ice water. (2015 SPOK: NBC)

<BNC の用例>

- (13) There she could sit at one of the outdoor cafs and read her letter undisturbed while sipping a cool drink of lemon or perhaps iced tea. (1991 W_fict_prose: The truth of stone)
- (14) Beverages had advanced following a successful expansion of ice tea in southern Europe, while results from ice cream, in which Unilever leads the UK market with Walls, had been below last year's exceptional levels for the quarter. (1993 W_newsp_other_report: Liverpool Echo & Daily Post)
- (15) Sergeant Bramble made as if to speak, but the foreign person silenced him with a glance that would have iced coffee. (1990 W_fict_prose: A classic English crime. Heald, Tim)
- (16) 'ice coffee': No examples found.
- (17) Someone who knew what she was doing produced a pitcher of iced water for Farrar's hand. (1990 W_fict_prose: Bad dreams)
- (18) He paused to drink ice water. (1991 W_fict_prose: Whirlpool)

IV

以上、tea, coffee, water といった飲み物それぞれに前置される iced と ice の結びつきに関して、アメリカ英語を中心に、英米語の大規模コーパスを利用してその実状を見てきたが、結果は次の3点に要約できるように思われる。

1. アメリカ英語を歴史的観点から見ると、tea の場合、19世紀では iced tea のみ、20世紀には ice tea も多少見られるが、iced tea が一般的である。coffee の場合も、用例数は多くないが、一貫して iced coffee の方が一般的である。一方、water の場合、19世紀においては iced, ice の両方が大差なく使われていたが、20世紀には ice water が一般化する。
2. 現代アメリカ英語では、tea と coffee には通常 iced が使われるが、water には ice の方が圧倒的に好まれる。
3. 現代イギリス英語では、tea, coffee, water のどの語に対しても iced の方が一般的で、ice は例外的である。ただし、coffee の場合は、iced 形しか使われない。

以上のことから、現代アメリカ英語でも、現代イギリス英語でも、tea と coffee については iced の方が一般的な形式であることが分かる。一方、water に関しては、アメリカ英語では ice water のように、ice の方が一般的であるが、イギリス英語では iced の方が好まれる。これらの事実を勘案すると、内外のいくつかの辞書に見られる ice tea や ice coffee をアメリカ語法とする説明は、多少修正の必要があるのかもしれない。

注

- 1) 後述するアメリカ英語の歴史的コーパス COHA で検索してみると、iced milk は19世紀に数例見られるが、20世紀には見られない。ice milk は19世紀には見られず、20世紀後半になると少し出現する。実例をよく観察すると、19世紀と20世紀では iced milk と ice milk はそれぞれ別のものを意味しているようである。20世紀後半に見られる ice milk は「アイスクリーム」に近い食品を指している。Cf. MWCD (2012¹¹): 'ice milk (1947): a sweetened frozen food made of skim milk.'
- 2) COCA (<http://corpus.byu.edu/coca/>) は、1990年から現在に至るまで、毎年、5つのジャンル (Spoken, Fiction, Popular Magazines, Newspapers, Academic Journals) から400万語ずつ、合計2千万語を収録したもので、現在、5億2千万語余のコーパスである。
- 3) COHA (<http://corpus.byu.edu/coha>) は、COCA にほぼ準拠して構築された1810年から2009年に及ぶ約4億語のコーパスである。Fiction, Magazine, Newspaper, Non-fiction の4つのジャンルからなる。
- 4) BNC (<http://corpus.byu.edu/bnc/>) は1980年代から1993年に及ぶ約1億語からなるイギリス英語のコーパスである。Spoken, Fiction, Magazine, Newspaper, Non-academic, Academic, Miscellaneous の7つのジャンルからなる。

参考文献 (小論で言及したもののみ)

- AHD (2011⁵) = *The American Heritage Dictionary of the English Language*. 5th ed. Boston: Houghton Mifflin Harcourt, 2011.
- COD (2011¹²) = *The Concise Oxford Dictionary*. 12th ed. Oxford: Oxford University Press, 2011.
- Craigie & Hulbert (1938–44) = Craigie, W. A. and J. R. Hulbert (eds.). *A Dictionary of American English on Historical Principles*. Chicago: University of Chicago Press, 1938–44.
- LDCE (2014⁶) = *Longman Dictionary of Contemporary English*. 6th ed. London: Longman, 2014.
- Mathews (1951) = Mathews, Mitford M. (ed.), *A Dictionary of Americanisms on Historical Principles*. Chicago: University of Chicago Press, 1951.
- MWCD (2012¹¹) = *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*. 11th ed. Springfield, MA: Merriam-Webster, 2012.
- OALD (2015⁹) = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 9th ed. London: Oxford University Press, 2015.
- OED2 (1989) = *The Oxford English Dictionary*. 2nd ed. Oxford: Oxford University Press, 1989.
- Wilson (1993) = Wilson, K. G., *The Columbia Guide to Standard American English*. New York: Columbia University Press, 1993.

『研究社新英和大辞典』 研究社、2002⁶。

『ジーニアス英和辞典』 大修館書店、2014⁶。

福井・北山 (2008) = 福井慶一郎・北山長貴編著『最新英語語法辞典』 朝日出版社、2008。

『リーダーズ英和辞典』 研究社、2012³。

(たぐち あつし：英語メディア学科 教授)

(すえまつ のぶこ：鹿児島大学 准教授)

(たじま まつじ：九州大学 名誉教授)